

序 文

私は 2007 年度に、国際日本文化研究センター・外国人研究員として着任し、共同研究「古代東アジア交流の総合的研究」（研究代表者：王維坤，研究幹事：宇野隆夫）を 1 年間にわたって主宰した。

本共同研究は、「古代東アジアでは、地域間交流が特に盛んであった。中でも中日の往来は、日本の国家制度・都市建設・宗教活動・交易活動にまで大きな変革をもたらすものであった。また中国も、中国周辺の諸国やシルクロードを通じた西方諸国との交流を通じて、その社会を充実させていった」という認識からスタートしたものである。

古代東アジアは、国際交流が大きな社会変革を生んだモデルケースであり、そのさらなる解明は、時間空間をこえて人類史を考えるための重要な知見になると考えて、「井真成墓誌をめぐる国際交流の諸問題」、「古代東アジアの都市」、「古代東アジアの造墓」、「古代東アジアの文物交流」という、四つの研究課題について研究会を実施した。

このような研究課題は一つの研究方法で解明することは難しく、学際的な共同研究が必要であるが、幸い、本共同研究には、この分野の研究を深く進めてこられた考古学・東洋史・日本史の多くの研究者の参加をえた。そのため 1 年間という短い共同研究期間であったが、有益な共同研究会を開催することができ、本共同研究報告書を出版できることとなった。

本共同研究にご助力を頂いた多くの皆様方に、この場を借りて、改めて厚くお礼申し上げます。

2008 年 8 月

王 維 坤

西北大学国際文化交流学院副院長

国際日本文化研究センター外国人研究員（2007 年度）